

■危機管理および防災対策

近い将来高い確率で発生が予想されている宮城県沖地震に備え、さらなる災害対応能力の向上を図っていきます。自主防災組織については、九割近くの行政区で結成されており、引き続き結成の促進に努めます。

■交通・防犯対策

「自分の安全は自分で守る」、「地域の安全は地域で守る」を基本に、市民意識の高揚を図りながら、安全性の確保や安心感の向上に積極的に取り組みます。

■小・中学校の施設整備

児童・生徒にとって安全で安心できる環境を確保するとともに、災害発生時における地域住民の避難場所として、耐震診断の結果を踏まえ、大規模改造と併せて計画的に整備を進めていきます。

■学校給食

〔仮称〕大崎南学校給食センターについては、八月からの給食提供に向け、建設と開設準備を進めていきます。本センターの配送先については、さらに時間をかけてPTAの皆さんなどの理解をいただけるよう、鋭意努力していきます。

本理念である「地域で支え合い 健康で元気なまちづくり」の実現に向け、事業を推進していきます。

また、妊婦健康診査については、公費負担をこれまでの三回から十回に増やし、未受診者の解消と経済的な負担軽減を図ります。

■高齢者福祉・介護保険事業

本年度から三年間の計画期間でスタートする「第四期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」については、高齢者が住み慣れた地域で安心して自立した生活ができ、介護を必要とする時に必要な介護を受けながら地域での生活ができるよう各種事業の推進に努めていきます。

■児童福祉

保育ママ制度を活用した家庭的保育事業の展開や、認可外保育施設利用保護者への保育料助成制度の創設など、子育て支援の充実に努めます。学童保育は、四月から新たに古川地域の宮沢地区と岩出山地域の西大崎地区が加わることで準備が進んでいます。本年度からは十二地区で学童保育が実施されることになり、今後とも運営などに対して支援していきます。また、公設の放課後児童ク

■学校教育

新学習指導要領は、本年度から移行期間に入ることから、移行措置の円滑な実施と児童・生徒の学力向上などを図るため、県教育委員会との連携のもと、新学習指導要領の理念と内容の具現化・実践化を促すとともに、市教育研究員事業や市研究協力校の成果の普及に努めます。

■学校教育環境の整備

望ましい教育環境の実現に向けた学校教育環境整備指針基本原案の策定を進めます。本年度は、十項目の課題について具体的な検討を行い、年度末には中間報告として公表できるように取り組みます。

■生涯学習

多様な学習機会の提供や学習成果を発揮する場の創出に取り組みるとともに、地域と連携した文化祭などを積極的に支援します。

また、昨年十月に策定した「大崎市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動の推進に努めます。

■図書館等の建設

平成二十六年途中の開館に向け、図書館機能のあり方や全市民的なネットワークの進め方、図書館以外の併設機能な

ラブは、本年度から全クラブにおいて保育料を徴収し、開設時間を午後七時までに統一します。

■ラムサール条約湿地保全活用事業

昨年十月、ラムサール条約湿地に「化女沼」が登録されました。今後は、「蕪栗沼・周辺水田」の取り組みを学び、地域の方々を主体に、NPO等の関係団体の理解と協力をいただきながら、湿地保全活用計画を検討・策定する組織の設置と化女沼湿地の保全や活用を担う地元団体の育成などに取り組みます。

■環境行政

良好な環境の保全・創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「大崎市環境基本計画」を本年度中に策定します。

また、地球温暖化防止に向け、一月に策定した「大崎市公共施設地球温暖化対策率先実行計画」に基づき、庁舎などの公共施設における二酸化炭素等温室効果ガスの削減に積極的に取り組みます。

■水道事業

「大崎市水道事業基本計画」の進行管理を的確に行うとともに、アウトソーシングの導

どについて、図書館運営協議会やパートナーシップ会議などの意見をいただきながら、基本構想策定のための基礎調査に取り組みます。

■農林業の振興

農業を持続的に発展させるためには、自然と共生した環境保全型農業の推進が重要であるとの考えのもと、国や県の施策の活用を進めるとともに、農業者や関係機関などと連携して環境に配慮した農業振興を図っていきます。

また、「大崎市バイオマスタウン構想」の策定を進めており、バイオマスの有効活用による産業の活性化を推進します。

■工業の振興

地場企業の収益力の向上と雇用の確保のための支援に努めるとともに、自動車関連産業の情報収集や情報交換会などを進め、地場企業の自動車関連産業参加などの官民共同体制を構築していきます。

■下水道事業

下水道整備地域である各処理区の汚水管の整備を進めるとともに、古川師山浄化センターの改築や岩出山浄化センターの汚泥処理施設を整備します。また、雨水整備についても、古川・松山地域の整備を引き続き進めていきます。

■市営住宅

「大崎市住生活基本計画」と「大崎市公営住宅ストック総合活用計画」の策定作業を進めます。

また、雇用・能力開発機構から要請があった雇用促進住宅の譲渡については、住宅の状況や地域の実情などを考慮して、松山宿舎を地方単独住宅などとして購入する方向で検討しており、施設の耐震診断や維持管理の見直し、購入する際の施設改修の負担割合、譲渡価格などの課題について、開発機構と協議を進めます。

工業団地については、現在、農工団地の指定に向け県と協議を進めている三本木地域音無地区、本年三月に策定予定の「大崎市産業団地整備基本構想」を踏まえ、企業の立地動向に合わせ、整備を検討していきます。

■商業の振興

商店街活動への支援や空き店舗の活用を促進し、商工会議所、商工会、観光関係団体などと連携を図り、にぎわいの創出を図るとともに商店街の活性化に取り組みます。

また、制度融資施策を柱に、関係機関・団体との連携を図りながら、中小企業の経営安定化と基盤強化に努めます。

■観光の振興

仙台・宮城・デステイネーションキャンペーンで培った体制や事業の継続を図るため、「〔仮称〕大崎おもてなし委員会」を組織し、官民一体となった観光宣伝事業などを展開していきます。

市長コラム 天・地・人



ピンチをチャンスに変えよう！

大崎市はいよいよ四年目を歩み出しました。

百年に一度の経済危機は地域経済を直撃し、順調に歩み続けていた本市のまちづくりや市民生活は、一大ピンチに見舞われています。

もとより、国の経済・雇用対策と呼応して、雇用機会の創出や住宅の確保、公共事業における地域経済の還流促進、プレミアム商品券による消費の喚起などに取り組んでいます。

同時にこのピンチを新たな活路を見出すチャンスへの試練と捉え、知恵を絞り、創意と工夫をもって果敢にチャレンジしなければなりません。

世界中で減産の嵐が吹き荒れる自動車産業、幸いにして東北の国内第三拠点化戦略は変更されることなく、工場などの整備が進められています。アルプス電気が生産拠点再編に伴う、

■鳴子峡周辺整備事業  
県砂防事業として、本年度は中山平側入口から回顧橋までの山腹崩壊対策工事を実施予定であり、市では回顧橋の展望デッキや見晴台の整備を行います。

■病院事業改革と病院建設

本院の建設事業は、建設に必要な敷地の確保に向け、関係する地権者の皆さま方のご理解とご協力のもとに、不動産鑑定評価や家屋などの移転補償調査を実施しており、本年三月までに計画に沿った用地取得に関する同意が得られるよう、鋭意努力します。

本年度は、本院建設にかかわる基本設計に着手し、病床数五百床規模の高度医療や急性期医療に特化した病院として、平成二十五年度中の開院を目指して事業を推進していきます。

岩出山分院の建設事業は、「あつたか村」地内に病床数四十床規模の初期医療や一般医療に対応する病院として、平成二十三年度中の開院を目指して基本設計、実施設計を行います。

■健康づくり

本年三月に策定する「大崎市健康増進計画」、「大崎市母子保健計画」に基づき、基

大崎地方への拠点集約化も進められており、力を合わせて「ものづくり大崎」に住んでみたいまち大崎の実現に邁進します。

また、内需拡大を図る切り札として、グリーン・ニューディール政策が推進されようとしています。大崎市は、森林・農地・自然環境・バイオマス等の地域資源に恵まれており、「大崎版グリーン・ニューディール政策」の実現に邁進します。

さらに、温泉・食・環境などの観光資源に恵まれている大崎市。DCの成功を契機に観光ブランドを確立し「観光立市大崎」の実現に邁進します。

私も市長に就任して四年目という節目を迎えます。「宝の都(くに)・大崎」の実現に向けての正念場と捉え、ピンチをチャンスに変えるために渾身の努力を傾注してまいります。

大崎市長 伊藤 康志